

情報共有

(4枚 非管理用)

官邸班 NISA班 ← フォル対峙
※ NISA合意にお渡し済み

2

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 6 月 13 日 (月) 11:00~11:45

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月13日 7:00 現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6月13日)
- ・ 福島第一原子力発電所 2号機 原子炉建屋内空气中放射性物質濃度推移

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 水処理施設の耐震性はどうか。

A. 建屋そのものは基準地震動 S_s による評価を行い、健全性を確認している。建屋内の各機器に対しては耐震クラス B クラスによる評価で健全性確認している。

Q. 株主総会では、アナリストに対して特別な対応をするのか。

A. 特別な対応は予定していない。

Q. 循環型海水型装置の本格運転は既に始まっているのか。

A. 確認させていただく。

Q. 水処理システムのアクティブ試験の開始はいつか。

A. 現時点では、サブプレッションプールサージタンクに溜まっている水を使用する水処理装置全体の試験は明日実施する予定。セシウム吸着塔に関しては、本日は引き続き全体での確認試験、流量調整等の制御装置の確認試験を実施する予定。アレバの除染装置は吸着剤や凝集槽に薬液を注入する等、アクティブ試験に向けた起動試験を実施している。

Q. 2号機原子炉建屋は局所排風機によって放射性物質濃度が低下傾向だが、入域可能なレベルということか。

A. このまま低減していけば、全面マスク運用基準を下回り、環境改善としては目標を達成できると思う。この濃度で建屋の二重扉を開放した際に、周辺の環境にどれくらいの影響があるのかを評価した上で、保安院へ報告したいと考えている。

Q. 雑固体廃棄物処理建屋の水位が上昇しているが原因は。

A. 地下連絡通路へ地下水が流入していると考えており、地下連絡通路から雑固体廃

棄物減容処理建屋への流入があるのではないかと考えている。

- Q. 汚染水の処理施設の今後のスケジュールに関して、以前はキュリオンのプラントは2日間、アレバのプラントは2日間、全体試験1日との説明であったが、現状をふまえると明日から5日間かけて試験するという事か。具体的にはいつ頃か。
- A. アレバ除染装置とセシウム吸着装置は一部で短縮できるものがあり、現時点では最速で4日間程度で試験を終える見通しで、本格的に汚染水を処理開始するのは17日もしくは18日と考えている。

Q. キュリオン吸着塔の流量不具合の原因と改善策は。

- A. 何か異常が生じたわけではなく、今回の単体試験や各系列での試験を実施する中で、弁のラインナップやポンプの運転、ソフトウェアの点検を順次実施している中で一部正常でないものを確認して修正したものである。

Q. 具体的に何をどのように修正した結果、流量が修正できたのか。

- A. 系統構成を一からやり直している。まず、二系列目で流量が出なかったため、他の系列を切り離して二系列目だけで試験したら流量が出たもの。本日、4系列同時に稼働させ、各系列のバランスを取るための流量調整を実施する予定。

Q. 2系列目だけを単独で実施した際にプログラムいじったり、弁交換したりしないのか。

- A. プログラムそのものに手を加えることはないが、流量調整する際の制御定数を操作することはある。

Q. セシウム吸着塔で4系列同時に稼働させる試験は午前中に実施予定とのことだが、いつから試験しているか。

- A. 確認させていただく。

Q. 現時点のプロセス主建屋の水位と移送可能容量は。雑固体廃棄物減容処理建屋への移送はいつ頃から可能になるのか。

- A. プロセス主建屋の水位は O.P. 4298mm なので、あと 80cm ほど移送可能である。雑固体廃棄物減容処理建屋はまだ受け入れに関する原子力安全・保安院への報告が終われば 1,000m³ 程度移送可能になる。

Q. プロセス主建屋は4日程度で80cmに到達すると思うがどうか。

- A. 現状だと、プロセス主建屋は4日程度で O.P. 5,100mm に到達する見通しなので、この間に雑固体廃棄物減容処理建屋や1号機復水器への移送の検討や、その他、タービン建屋にも水を蓄える等をしたい。

Q. 3号機タービン建屋はあと19cm程度で O.P. 4,000mm に到達するがどのように対処するのか。

- A. 3号機タービン建屋は一日で約20mm程度上昇しており、あと数日で O.P. 4,000mm に到達するので、今後2号機と3号機の水位を見ながら移送を検討したい。

4

- Q. 今ある手段を使用すると O.P. 4,000mm 到達に関しては、いつ頃まで持ちそうか。
A. 今ある手段を使用すると最大でも 6 月末頃までと想定している。

Q. 6 月末頃までという想定は雨水の影響は考慮されているのか。また、集中廃棄物処理施設の他の 2 つの建屋に関しては、汚染水の移送の準備のための止水工事を実施しているのか。

A. 今回の評価は雨水の影響は考慮していないため、大量の雨が入ってくるとさらに厳しめの評価になる。雑固体廃棄物減容処理建屋の残り 1,000m³ は確認が終わっており、報告書をまとめて原子力安全・保安院に提出する準備している段階。予備として考えている焼却工作建屋やサイトバンカ建屋の止水工事は完了している。

Q. 雨水の降水量を評価に入れない理由は。

A. 不確定な要素がある降水量は評価していないが、これまでの降雨量のデータをふまえると、約 100mm の降雨があった場合には 2 号機で約 68%、3 号機では約 52% が建屋の中に入っていくものと考えている。

Q. それぞれどの程度水が入り水位があがるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 放射線従事者の防護教育の教本を公開しないのか。

A. 実際に働く方が放射線の教育を受けていただければいいと考えているので、要望等をふまえて検討するが、現時点で公開する予定はない。内容としては主に、放射線の種類、防護に必要な距離や時間、防護服の着用の仕方等を教える内容になっている。

Q. キュリオン吸着塔不具合について、弁の開閉を運転中と違う設定であったものを修正したとのことだが、具体的にどのように修正したのか。

A. 基本的には建設時に設置してから弁のラインナップを確認するのが試運転の目的であり、何か不具合があったというより、そういうことを見つけて正常な運転が可能になったということ。

Q. 工程表は内容を見直して 6 月 17 日に公表する予定か。

A. 現時点では 17 日にお知らせする予定。

Q. 工程表は水処理施設が稼働することを前提に見直すのか。

A. 17 日もしくは 18 日に稼働することをふまえた工程表になる可能性がある。

Q. 今ある手段を使用すると 6 月末までに O.P. 4,000mm 到達するとのことだが、それは現時点で汚染水を水移送していないサイトバンカ建屋と焼却工作建屋の容量も含まれているのか。

A. 含まれていない。今使用していない箇所としては 1 号機復水器に 1,200m³、雑固体廃棄物減容処理建屋に 1,000 m³、プロセス主建屋が約 80cm 分残っているの、これらを全て利用して 6 月末までということ。

5

Q. サイトバンカ建屋は移送の準備はできていないのか。

A. サイトバンカ建屋の容量は1,000m³程度あり、止水工事は終わっているが今のところ含めていない。今後、水処理施設がうまくいかない場合に備えとして考えている。

Q. 水処理施設の本格稼働の予定が遅れていることについてどのように考えるか。

A. 遅れが生じたことによりタービン建屋やトレンチの水位が O.P. 4,000mm に近づいている状態であるが、現時点では水処理施設運転開始に向けて力を注いでいる段階である。

Q. 水処理施設の運転開始は当初の予定から4日以上遅れるということか。

A. 当初、運転開始予定を6月15日前後とお伝えしていたので3~4日、数え方によっては2~3日遅れることとなる。

Q. 低濃度であっても、処理した後の水を海洋放出して問題ではないのか。低濃度でも大量放出すれば国際条約に触れるのではないか。

A. 世界各国どの原子力発電所においても、プラントで発生した余剰水が水中濃度限度以下であれば放出していると思われる。

以上